

3月の植物

タムシバ (モクレン科モクレン属)

Magnolia salicifolia (Siebold et Zucc.) Maxim.

今月の植物は、3月の観察会のテーマであるタムシバです。タムシバは葉を噛むと甘いため、噛柴(かむしば)が名前の由来になっているとの説があります。また、花に芳香があり、コブシの花に似ていることから、ニオイコブシの別名もあるようです。その別名が指し示すとおり、タムシバとコブシの花はよく似ています。コブシの花は、中央下部が紅色をしていること、花の下に小さな緑の葉をつけるので、タムシバと区別できます。他にも、同じ時期に白い花を咲かせるモクレン属の植物に中国原産とされるハクモクレンがあり、よく庭や公園に植栽されています。ハクモクレンは、花被片(花弁と萼片を合わせたもの)が9枚であり、数多くの花をつけるので、タムシバやコブシの6枚の花弁の花に比べると、遠目からでもよく目立ちます。

本文に記載しているモクレン属の3種ですが、どれもつぼみが「辛夷」という生薬になり、鼻炎や蓄膿症に用いられているとのことです。(文責：古賀保匡)



タムシバ (撮影 井手義信)



コブシ (撮影 井手義信)



ハクモクレン (撮影 古賀保匡)